

プーチンに自国を売り渡し、「戦争の共犯者」に成り下がった「欧州最後の独裁者」

2022年03月12日（土） 17時20分

58

1



チャタムハウスで講演したスベトラーナ・チハノフスカヤさん（筆者撮影）

＜「ロシア軍の補給線を断つ後方からの攻撃を阻止する」と表明したベラルーシのルカシェンコ大統領にも制裁を科すよう、同国の民主派指導者チハノフスカヤ氏は訴える＞

【ロンドン発】「欧州最後の独裁者」ベラルーシのアレクサンドル・ルカシェンコ大統領は3月11日、モスクワでウラジーミル・プーチン露大統領と会談した。これに先立ち、ルカシェンコ氏はウクライナに侵攻したロシア軍の補給線を断つ後方からのいかなる攻撃も阻止しなければならないと表明したとベラルーシ国営ベルタ通信は伝えている。

2020年9月、ルカシェンコ氏はプーチン氏から15億ドル（約1750億円）の融資を取り付けた。昨年12月には新たに30億～35億ドル（3500億～4100億円）の支援を要求し

ているとみられている。ルカシェンコ氏が自分の体制を維持するために、主権をプーチン氏に売り渡したのは誰の目から見ても明らかだ。

キエフ大公国（9世紀末から13世紀）に起源を持つ3カ国のうちロシア、ベラルーシは「悪の枢軸」と化し、残るウクライナを攻撃する。昨年7月、プーチン氏は「ロシア人とウクライナ人の歴史的統一について」という論文の中で「ロシア人とウクライナ人は一つの民族であり、統一性を持っている」との自説を展開した。

「ロシア人、ウクライナ人、ベラルーシ人は欧州最大の国家だった古代ロシアの後継者だ。しかしウクライナのロシア人は自分たちのルーツを否定するだけでなく、ロシアが自分たちの敵だと信じることを強いられている。ロシアは（3カ国の結束を弱めようとする勢力の策略による）『フラトリサイド（兄弟殺し）』を止めるためにあらゆることをしてきた」

「民主主義の闘いは主権を取り戻す闘いに変わった」

キエフ市民が歓喜の声でロシア軍を迎え入れるという妄想が破れたとたん、ウクライナの主要都市への容赦のない無差別攻撃を開始したプーチン氏こそ紛れもない「フラトリサイド」の主犯である。「皇帝気取り」のプーチン氏はロシア正教を広めたウラジミール大帝に自分を重ね合わせて、独裁のため宗教や歴史を都合よく利用しようとしている。

ベラルーシ民主派のリーダーでバルト三国のリトアニアに逃れたスベトラナ・チハノフスカヤさん（39）は英有カシンクタンク、王立国際問題研究所（チャタムハウス）での講演で、戦争の共犯者ルカシェンコ氏とその政権に国際決済ネットワーク、SWIFTからの排除をはじめ対ロシアと同様の厳しい制裁を科すよう国際社会に求めた。

次のページ 「ロシアのような嫌われ者になりたくない」

1

2

3

次のページ

プーチンに自国を売り渡し、「戦争の共犯者」に成り下がった「欧州最後の独裁者」

2022年03月12日（土） 17時20分

58

1

「ウクライナの同胞が最愛の家族を失い、祖国を後にしなければならない。産科病院が爆撃された。ベラルーシはロシアによって戦争の踏み台に使われた。私たちの祖国は事実上、ロシアに軍事占領されている。2月24日のウクライナ侵攻で始まった新たな現実には、民主主義を守る私たちの闘いが主権を取り戻す闘いに変わったということの意味する」

開戦2日後の26日、ベラルーシの首都ミンスクでは1年半に及ぶ民主派弾圧にもかかわらず、数万人が抗議のため街頭に繰り出し、800人以上が当局に拘束された。国外から抗議活動を主導したのはスベトラナさんだ。2年前、大統領選に立候補する予定の民主活動家の夫セルゲイさん（43）が当局に拘束され、代わりに自分が立候補するまで一介の英語教師に過ぎなかった。



2児の母親で1人の英語教師に過ぎなかったスベトラーナさん（筆者撮影）

「ロシアのような世界の嫌われ者にはなりたくない」

2児の母親でもあるスベトラーナさんは政治や選挙についてはズブの素人だったが、「大統領選に当選したら全政治犯を釈放する。半年後に大統領選をやり直す」という、夫を愛する妻としての訴えが国中の共感を集めた。元駐米ベラルーシ大使の妻ペロニカ・ツェプカロさんとフルート奏者マリヤ・コレスニコワさんと一緒に写った写真は選挙運動のシンボルになった。

大統領選の結果、スベトラーナさんの得票率は10%。ルカシェンコ氏は80%の支持を得て大差で6選を果たしたが、「選挙に不正があった」とベラルーシ全土に抗議デモと混乱が広がり、スベトラーナさんは安全のため祖国を逃れた。夫のセルゲイさんには昨年12月、大規模な混乱を組織した罪などで懲役18年の実刑判決が宣告された。

チャタムハウスの世論調査ではベラルーシ市民の11%がロシア軍を支援するためベラルーシ軍をウクライナに送ることに同意したが、「今やルカシェンコ支持者でさえ戦争に反対している。ベラルーシはロシアのように世界の嫌われ者になることを望んでいない。戦争反対の声が祖国の民主化を後押ししている」とスベトラーナさんは力を込めた。

彼女によると、現在、ベラルーシ軍は国境を越えてウクライナに入るのを拒んでいる。しかし「独裁者の考えを改めることはできないし、彼らは決して平和をもたらさない。ルカシェンコは憲法を改正して生涯、刑事責任を問われることはなくなった。ウクライナに兵を送るのは平和維持のためだと平気で嘘をつくだろう」という。

[次のページ](#) 地下に広がるオルタナティブメディア

[前のページ](#)

1

2

3

[次のページ](#)

プーチンに自国を売り渡し、「戦争の共犯者」に成り下がった「欧州最後の独裁者」

2022年03月12日（土） 17時20分

58

1

地下に広がる若者たちのオルタナティブメディア

ベラルーシの市民・人権団体、メディアは徹底的に弾圧された。政権を批判するメディアはすべて閉鎖された。ロシア軍がウクライナに侵攻したどさくさに紛れてルカシェンコ氏は大統領権限を強化し、ロシアの核兵器で再武装できる憲法改正の国民投票を行い、80%以上の賛成で承認された（ロシアのタス通信）。

しかしスベトラーナさんは「国際コミュニティのおかげでオルタナティブメディアは海外に拠点を移し、ネットワークを復活させることができた。今や民主主義を信じるベラルーシの全市民がジャーナリストだ」と強調した。ベラルーシの民主運動には欧州議会から人権を守る人々の活動を支援する「サハロフ賞」が贈られている。

新聞やテレビ、ラジオといった伝統的なメディアではなく、テクノロジーの扱いに慣れた若者たちは当局の統制を逃れるVPN（バーチャル・プライベート・ネットワーク）を使ってインスタグラムやユーチューブに「大本営発表」ではない真実を投稿する。こうしたオルタナティブメディアの草の根ネットワークはロシアにも広がっているという。

「私が大統領選に立候補した時、平和的な革命を目指したと非難されることがある。どうしてルカシェンコの転覆を目指さなかった、甘過ぎると糾弾される。しかし私たちは法の支配を信じていた。団結の力を信じていた。強い決意が私たちを助けてくれると考えていた。みんな暴力を経験したことがない普通の市民だった」

「ウクライナでは政権も市民も同じ側に立ちプーチンと戦っている。ベラルーシは政権と市民が別の方向を見ている。しかしベラルーシの市民はまだ銃を取る必要はないと信じる。平和的な手段で祖国を民主化できると信じている。これから何が起きるのかは誰にも分からない。ベラルーシの未来はウクライナにかかっている」とスベトラーナさんは語る。

【関連記事】

[プーチンの異常なウクライナ「執着」の源...1000年に及ぶ歴史から完全解説](#)

[プーチンは本気で「歓迎」されると思っていた...幻想を打ち砕かれ、本格攻撃へ](#)

[前のページ](#)

[1](#)

[2](#)

[3](#)